

丸山校区 小地域福祉活動第一次計画 －課題の整理と活動方針－



ふれあいネットワーク 協議会

ごあいさつ

丸山校区では、住民みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくりを目指して、地域住民や公私の社会福祉関係者が協力して地域福祉活動を進めてきました。特に、北九州市で平成6年に開始されたふれあいネットワーク活動にも初年度より取り組み、「自分たちの地域の福祉課題は、自分たちが解決していく」という目的のもと、見守り・助け合い・話し合いの活動を中心に小地域福祉活動を進めてきました。

現在は、全国的に本格的な少子高齢化時代となり、世帯構造についても大きな変換期を迎えています。北九州市においても少子高齢化や、障害を持つ人の増加、孤立死やホームレスの問題など地域の生活課題は一層の多様化を見せており、地域福祉の重要性の高まりが必要とされています。その中で行政と民間団体との役割分担と協働の指針である「北九州市地域福祉計画」が行政により策定され、また行政計画と協働しながら北九州市社会福祉協議会が中心となって地域社会の福祉課題を解決するための「北九州市地域福祉活動計画」が推進されています。

丸山校区においても高齢化や山坂が多い地域性からくる生活課題が増えてきており、今後地域福祉活動を進めていくためには、地域福祉を担う関係団体がもう一度地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けて話し合い、協働を生み出していく協議の場が求められています。そこで、北九州市の地域福祉計画及び地域福祉活動計画と整合性を持ちながら、住民主導により地域福祉活動を進めるため、丸山校区の小地域福祉活動計画を策定しました。

この計画の策定にあたりご尽力いただきました本計画策定委員会委員並びにご意見をお寄せいただきました関係者の皆様に、感謝を申し上げます、ご挨拶といたします。

令和4年3月31日

丸山校区社会福祉協議会
会長 中洲 清高

も く じ

ごあいさつ … 1 p

第1章 丸山校区の現状と課題 … 2 p

- 1 地域社会の動向
- 2 地域の福祉課題

第2章 計画策定にあたって … 3 p

- 1 計画の性格
- 2 計画の期間
- 3 計画の策定経過

第3章 計画体系 … 4 p

- 1 基本理念
- 2 基本目標
- 3 実施項目（体系図）
- 4 活動の方針（重点実施項目）

第4章 計画の推進 … 6 p

- 1 地域への計画の承認と周知
- 2 計画を推進するための体制
- 3 第二次計画の策定

参考資料 … 7 p

- 1 策定委員会名簿
- 2 策定委員会での協議事項



第1章 丸山校区の現状と課題

1 地域社会の動向

丸山校区データ

令和4年3月現在

人 口	2,152 人	小 学 校	門司海青小学校
世 帯 数	1,151 世帯	中 学 校	門司中学校
高 齢 化 率	48.0%	公民館・市民センター	丸山市民センター
高 齢 者 数	1,032 人	地域包括支援センター	門司2
その他社会資源等	吉野保育所、ひかりの子学園 他		

丸山校区は、今レトロ観光で大変賑わっている門司港にあります。その中心は JR 門司港駅から歩いて 20 分、まちの大半が小さな山に囲まれた人口約 2,000 人の閑静な住宅街です。

門司港は戦前、大陸への起点として、また本州への中継点として栄えましたが、軍事的にも重要な地域でもあり、丸山地区には陸軍の倉庫群が点在し、現在でも軍道通りという町内会が残っているほどで、軍需物資の輸送に人や馬車の往来が多かったようです。

また、炭坑や海運景気の影響で、山手には高級住宅や別荘、旅館、料亭などが多くありました。従って、戦前から住んでいる人が多く、その結果少子高齢化の波を受け、現在では門司区内でも高齢化の非常に高い地区となっています。静かな住宅街ですが、急な坂道や階段、路地の多い地形は高齢者にとって厳しい生活環境となっています。

2 地域の福祉課題（及び小地域福祉活動の課題）

丸山校区では平成6年よりふれあいネットワーク活動が展開されていますが、少子高齢化の影響もあり、また丸山校区内の高齢化率も高いため、福祉協力員の平均年齢も 72.8 歳(全市平均 68.6 歳)と高く、そのために校区内では福祉活動者の早急な育成が求められています。

福祉活動を進めていく上での課題としては、ゴミ出しや買い物などの生活上の困りごとが徐々に増えてきていることや、台風や局地的豪雨の際に避難等に支援が必要な方も増えてきています。

実際に平成30年7月豪雨災害では、校区内でもがけ崩れなどの土砂災害が発生し、日頃からの見守り活動に加えて、災害時への備えの重要性も高まってきています。

また、校区内の様々な活動のうち、当初の目的を達成したものなど、限りある校区のマンパワーを優先度の高い福祉課題に集中するために、活動の見直しや統合も視野に入れる必要があります。

今後、地域住民が住み慣れたまちで安心して生活を送るためには、制度と制度のはざまにある日常的な困りごとへの継続的な対応など、誰もが安心して暮らせる支え合いのまちづくりに向けた体制整備が必要となっています。



『桜峠（門司峠）』

一夏草や峠の茶屋に馬休む 赤土の道見ゆ
山の茂りかなー この句は明治39年(1906)俳人 暁門が読んだ句です。当時の峠の様を知ることができる唯一のものです。桜峠は丸山・東郷地区の境界にあたり、豊前街道と結ぶ幹線道路の役割を果たしてきました。この峠のまつわる史実として幕末の豊長戦争にその一端を見ることができます。現在、この峠には道祖神 猿田彦大神が祀られています。

第2章 計画策定にあたって

1 計画の性格

(1) 住民発信の行動計画

この計画は、丸山校区の様々な福祉課題を解決するために、住民や民間団体が将来の見通しを持って計画的に活動しようとするための民間の行動計画です。

(2) 小地域の生活を支える計画

この計画は、丸山校区に住む人たちの「生活」を支えることを活動の原点とする計画です。

(3) 北九州市及び北九州市社会福祉協議会・門司区社会福祉協議会と協働する計画

この計画は、北九州市及び北九州市社会福祉協議会の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

(4) 丸山校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や発展強化の道筋を明らかにする性格を有します。

2 計画の期間

令和4年度～令和8年度までの5ヵ年とします。

3 計画の策定経過

丸山校区では、地域福祉活動に取り組んでいる関係機関・団体等からの意見を踏まえ、民間の地域福祉に関する計画を策定するため、丸山校区小地域福祉活動計画策定委員会を設置しました。令和元年10月に立ち上げた同委員会において、19名の委員により4回の協議の上、丸山校区小地域福祉活動計画を策定しました。(参考資料を参照)

なお、策定にあたっては新型コロナウイルス感染症の拡大防止等のため、策定委員会を短縮し、計画については今後5カ年間の活動方針という形でまとめました。



『^{すいどう}桜隧道（旧桜トンネル）』

明治23年(1890)以降、一寒村にすぎなかった門司が急激に変化、発展するなか、桜峠により門司と東郷地区はほとんど隔絶されていた。

固い岩盤を掘削する難工事（一昼夜で20cmほど掘り進むことも）を経て、このトンネルが完成したことは、両地区の人流・物流に大きく寄与し意義深いものがある。

〔明治45年4月(1912)着工、大正3年5月(1914)完工、長さ約270m〕(昭和4年、東郷地区は門司と合併)



第3章 計画体系

1 基本理念「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」

丸山校区では、子どもから高齢者まで、障害のあるなしに関わらず、誰もが住み慣れたところで安心して生活できるまちにしたいと願っています。そこで「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」という言葉を計画の基本理念として、計画を推進していきます。

2 基本目標

(1) 福祉を学び合い、助け合いの意識を高めよう

福祉活動の広報啓発や子どもたちへの福祉教育を通じて、地域に福祉の風土を広げます。

(2) 住民同士のふれあい・交流を深めよう

地域交流の場所の設置やイベントを企画して、住民間のつながりを強めていきます。

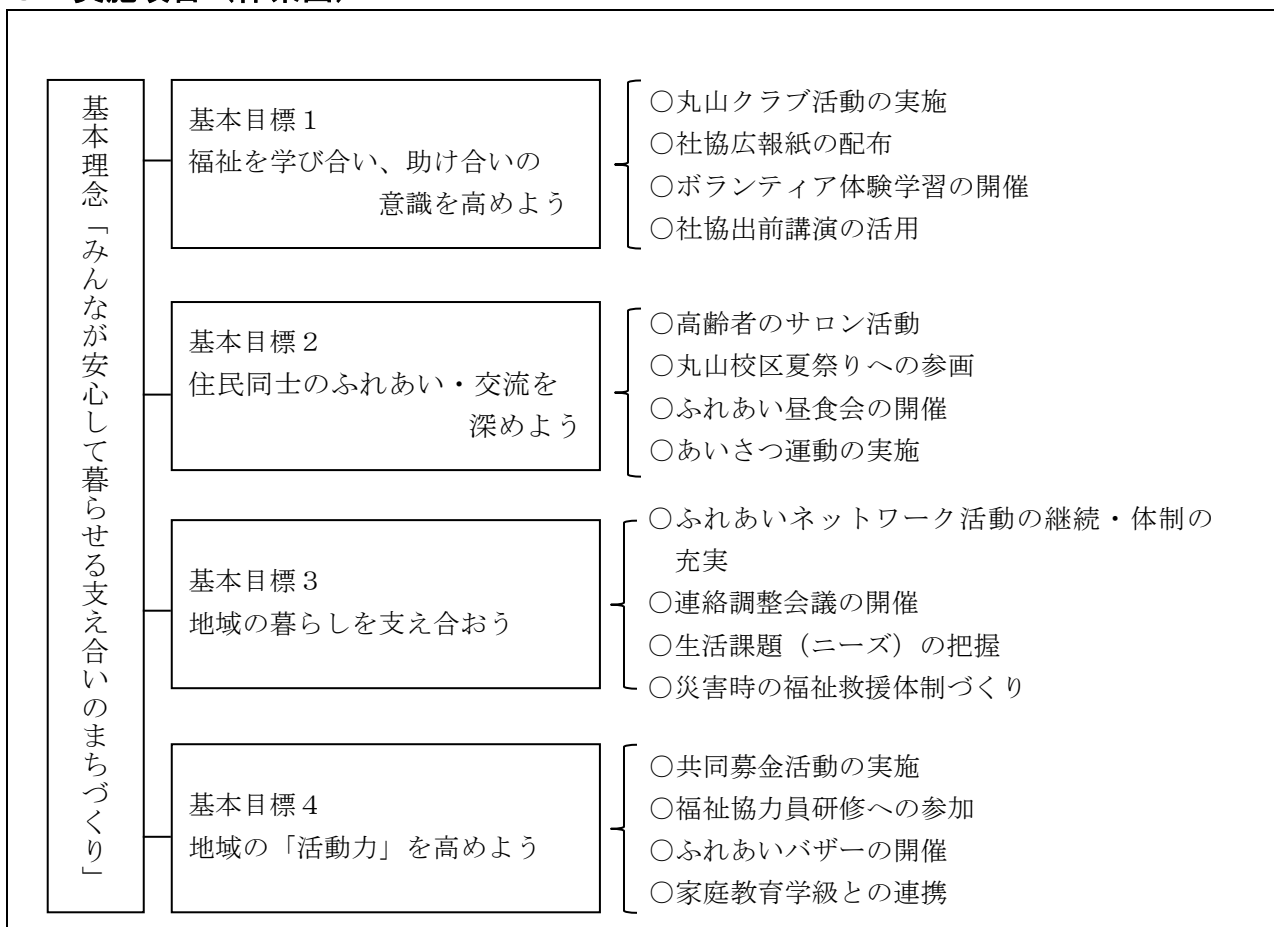
(3) 地域の暮らしを支え合おう

地域住民みんなが安心して暮らせるよう公私の社会福祉関係者と支援の輪をつくり、住民の主体的参加による福祉活動をすすめます。

(4) 地域の「活動力」を高めよう

活動者の募集や育成、活動財源の安定的な確保に向けた活動を通じ、地域の活動力を強化します。

3 実施項目（体系図）



4 活動の方針（重点実施項目）

重点実施項目	ふれあいネットワーク活動の継続・体制の充実
1 課題背景及び現状	校区では、高齢者の増加や小学校の統廃合により、校区全体の少子高齢化が著しく進展しています。 また、ふれあいネットワーク活動を中心とした小地域福祉活動を支える福祉協力員も高齢化が進み、一部ではこれまで長年にわたり継続してきた福祉活動を継続することも困難な状況も見られるようになってきています。一方で、一人暮らし高齢者等の見守り対象者は増加しており、小地域福祉活動の基本となるふれあいネットワーク活動の継続に向けた体制づくりが急務となっています。
2 活動の方針・目標	ふれあいネットワーク活動の担い手である福祉協力員の確保・育成を図り、基本となる見守り（訪問活動）・助け合い（できる範囲の日常支援）・話し合い（連絡調整会議）の活動を継続・維持していきます。
3 活動の方針	・年齢にとらわれず、元気な地域住民から協力者を募り、福祉協力員を確保します。 ・助け合い活動においては、福祉協力員が一人で抱え込むことなく、町内会や近隣住民の協力を得ながら無理なく支え合える関係を築いていきます。 ・共同募金等の重要性を住民に伝え、将来的な活動財源の確保につなげます。 ・住民の交流を大切にしながら活動全体を見直し、メリハリをつけた活動運営を行います。

重点実施項目	生活課題（ニーズ）の把握
1 課題背景及び現状	丸山校区では校区外の大規模商業施設の開設に伴い、地元商店街の集客数が減少し、閉店する店舗も増えてきています。一方で大規模商業施設は歩いて通うには距離があるため、頻繁に通うことが難しい高齢者もいます。公共交通機関についても、バスでの移動が難しい高齢者等も増えており、十分とは言えない状況です。
2 活動の方針・目標	買い物やゴミ出し支援等の生活支援ニーズについては、現在、福祉協力員等による個別支援を実施しています。今後は、見守り活動等を通じて、潜在的なニーズを把握し、将来的な取組の必要性について検討を行います。
3 活動の方針	・見守り活動において、安否確認に加え生活支援ニーズの把握を重点的に行います。 ・見守り活動において発見された生活支援ニーズの整理・分析を行います。 ・話し合い活動において、上記ニーズについて協議し、将来的な活動の必要性や在り方を検討します。



第4章 計画の推進

1 地域への計画の承認と周知

- ① 校区社会福祉協議会総会等を通じた社会福祉協議会活動者への計画の承認と周知
- ② 計画の実施項目を進めていく上での関係機関・団体への周知・協力依頼
- ③ 計画書概要版の配布等を通じた校(地)区住民への周知等、計画を推進していくために、計画の広報活動を行います。

2 計画を推進するための体制

(1) 小地域福祉活動計画推進委員会の設置

計画を推進していくために、丸山校区小地域福祉活動計画推進委員会を設置し、計画の進行管理を行います。

- ① 関係機関・団体との連携
- ② 計画内容の具体的な実施方法
- ③ 進行管理の実施等について、委員会では協議を進めていきます。

(2) 計画の進行管理

必要に応じ、小地域福祉活動計画の推進のための協議を行います。(当年度の事業推進の確認、年度内における中間確認、次年度の事業確認など)。

PLAN(計画立案) DO(実行) CHECK(点検・評価) ACT(改善) という PDCA のサイクルを回しながら、計画内の各実施項目の進捗状況を把握し、うまく進行していない場合には、その原因を明らかにし、問題への対策を立て、その対応策を実施します。

(3) 計画の評価

計画期間の最終年度には総括評価を行います。

3 第二次計画の策定

第一次計画の推進状況を踏まえて、次期計画の策定期間(計画最終年度)には第二次計画策定委員会を設置し、計画策定に向けて協議を進めていきます。



参考資料

1 丸山校区小地域福祉活動計画 『策定委員会』名簿

※役職等は策定時のもの

	氏 名	所属団体	役 職	備 考
1	八村 哲生	まちづくり協議会 自治連合会 公民館	会長 会長 館長	
2	中洲 清高	社会福祉協議会 まちづくり協議会	会長 役員	
3	森岡 孝生	自治連合会	副会長	
4	栗原 久子	社会福祉協議会（福祉協力員） 婦人会	副会長 会長	
5	豊嶋 輝代	社会福祉協議会（福祉協力員）	会計	
6	松尾 ミヤ子	社会福祉協議会（福祉協力員）	幹事	
7	荘川 篤子	社会福祉協議会（福祉協力員）	会計	
8	吉田 美智子	社会福祉協議会（福祉協力員）	幹事	
9	久世 紘征	社会福祉協議会（福祉協力員）	監査	
10	金山 ゆき江	社会福祉協議会（福祉協力員）	監査	
11	岡本 三津子	民生委員児童委員協議会	会長	令和元年 11 月 退任
12	岩本 富士夫	民生委員児童委員協議会	会長	
13	国信 正行	青少年育成協議会	会長	
14	若松 英昭	門司中学校	校長	
15	池田 優	海青小学校	校長	
16	新山 リエ	吉野保育所	所長	
17	清水 由美子	市民センター	館長	
18	瀬川 律子	公民館	主事補	
19	北九州市社協 門司区事務所			オブザーバー
20	門司区役所 保健福祉課			オブザーバー



2 丸山校区小地域福祉活動計画策定委員会での協議事項

回	開催日	主な協議事項
1	令和元年10月30日	1 地域の現状について 2 地域の活動状況について 3 地域の福祉課題について
2	令和元年11月28日	1 計画の基本理念について 2 計画体系（基本目標・実施項目）について
3	令和元年12月24日	1 計画の重点実施項目について 2 計画体系について（見直し）
4	令和2年 2月26日	1 既存の取り組み体系図と課題のつきあわせ （校区の強みと弱みの発見） 2 重点的な取り組みの検討（優先順位の整理）



★社会福祉協議会のイメージキャラクター★



『プチボザウルス』（Petit vo saurus）

Petit（**プチ**：ちっちゃな）

Volunteer（**ボ**ランティア）

Saurus（**サウルス**≡恐竜）

丸山校区社会福祉協議会

〒801-0831 北九州市門司区丸山 2-4-3 丸山公民館内

TEL 093-332-2027 FAX 093-332-2027

北九州市社会福祉協議会 門司区事務所

〒801-8510 北九州市門司区清滝一丁目 1 番 1 号門司区役所内

TEL 093-331-3688 FAX 093-331-5994

